九前研通信

No. 33

2016年9月15日

九州前方後円墳研究会
（代表：柳沢一男・宇野慎敏）

＜事務局＞
〒860-8555　熊本市中央区黒髪2-40-1
熊本大学文学部 杉井研究室
(Tel&Fax)096-342-2421
(E-Mail)sugii@gpo.kumamoto-u.ac.jp
(URL)http://www.pluto.ne.jp/~arksugii/
（郵便振替）口座名称：九州前方後円墳研究会
口座番号：01770-2-99555

各県の情報

……・熊本県・……

平成28年（2016年）熊本地震による熊本県内の古墳被害 ――― 杉井　健（熊本大学文学部）

2016年4月14日午後9時26分の前震、その28時間後、16日午前1時25分の本震。これらに始まる熊本県央を中心とした一連の地震活動は、気象庁によって平成28年（2016年）熊本地震と名付けられた。前震の最大震度は益城町の7、本震も益城町と西原村の7であり、私の住所に近い熊本市中央区大江でもそれぞれ5強と6強が観測された。

今回の熊本地震では多くの文化財が被害を受けた。熊本県教育庁文化課によれば（熊本県教育庁文化課2016.6.27）、6月24日現在の熊本県内における国指定・登録と県指定を合わせた文化財の被害件数は150件で、その全指定等件数685件に占める割合は21.9%となっている。この数値は、阪神・淡路大震災の8.2%（99/1213）、新潟県中越地震の6.5%（36/551）を大きく上回り、東日本大震災の28.7%（142/494）に匹敵する。被害件数だけで比べれば、東日本大震災の142件よりも多い。

こうした被災文化財のなかには古墳も多く含まれる。この点は熊本日日新聞でも報道されたが（熊本日日新聞2016.7.8）、県外の方にはそれほど知られていないのではなかろうか。そこで、本誌の紙面を借り、おもに写真によって熊本県内の古墳の被災状況をお伝えしたい。もちろんすべての情報を網羅しているわけではないが、今回の地震による古墳被害の一端を知っていただければ幸いである。

石之室古墳（図1・2）　熊本市南区城南町、塚原古墳群内にある円墳。その家形石棺の横口部や側壁、蓋石が倒壊した。塚原古墳群ではほかに三段塚古墳等の墳丘に亀裂が生じている。国史跡。

図1　〈被災前〉石之室古墳（熊本市）

図2　【被災後】石之室古墳（熊本市）

本号目次

各県の情報　熊本県　平成28年(2016年)熊本地震による熊本県内の古墳被害　杉井　健 ------ 1
編集後記 ---------- 8

図３　〈被災前〉釜尾古墳（熊本市）

図４　【被災後】釜尾古墳（熊本市）

図５　〈被災前〉二軒小屋古墳（熊本市）

図６　【被災後】二軒小屋古墳（熊本市）

釜尾古墳（図３・４）　熊本市北区に所在する装飾古墳。現在の墳丘は後世のものだが、その盛土が崩落し石室入口をふさいだ。８月17日にファイバースコープ調査が実施され、石室石材の一部の落下、羨道への土砂の流入などが確認された。国史跡。

二軒小屋古墳（図５・６）　熊本市西区の山中にある円墳。見事な穹窿状天井の横穴式石室を内部主体とする。その向かって左側の羨門積石上半部が崩落した。私がみたところ、玄室は旧状を保っているように思えたが、石屋形の上に以前は存在しなかった板石がみられたため、今後詳細な被災状況調査を

図７　〈被災前〉永安寺東古墳（玉名市）

図８　【被災後】永安寺東古墳（玉名市）

図９　【被災後】永安寺西古墳（玉名市）

行う必要があると思う。未指定。

永安寺東古墳（図７・８）　玉名市に所在する装飾古墳。装飾文様が描かれた前室石材の表面が剥落、一部の石材に亀裂が生じた。また、玄室右側壁の裏込め土が流出し、一部の壁体石材はその後背部までみえる状態となっている。国史跡。

永安寺西古墳（図９）　永安寺東古墳の西に隣り合う装飾古墳。ドーム状の保護施設に覆われた羨道・前室周辺の墳丘が大規模に崩落した。国史跡。

天水経塚古墳（図10～12）　玉名市天水町にある円墳。墳頂に置かれた舟形石棺の蓋石が若干動き、その際の摩擦力あるいは振動等によって棺身石材の表面に剥離が生じた。県史跡。

オブサン古墳（図13）　山鹿市に所在する円墳。羨道の天井石２枚のあいだに挟まれていた小型の石材が落下した。国史跡。

御霊塚古墳（図14）　山鹿市鹿本町にある装飾古墳。玄室左側壁上部の石材など、数個の石材が落下した。市教委の山口健剛さんによれば、石室壁体のはらみが大きくなったと思われるという。県史跡。

図10　〈被災前〉天水経塚古墳（玉名市）

図11　【被災後】天水経塚古墳（玉名市）①

図12　【被災後】天水経塚古墳（玉名市）②

図13　【被災後】オブサン古墳（山鹿市）

図14　【被災後】御霊塚古墳（山鹿市）

図15　【被災後】臼塚古墳（山鹿市）

図16 〈被災前〉袈裟尾高塚古墳（菊池市）

図17 【被災後】袈裟尾高塚古墳（菊池市）

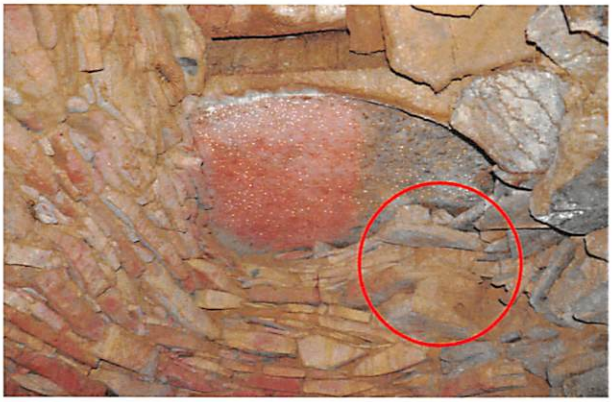

図18 〈被災前〉長明寺坂1号墳（菊池市）

図19 【被災後】長明寺坂1号墳（菊池市）

図20 〈被災前〉井寺古墳（嘉島町）①

図21 〈被災前〉井寺古墳（嘉島町）②

図22 【被災後】井寺古墳（嘉島町）①

図23 【被災後】井寺古墳（嘉島町）②

臼塚古墳（図15）　山鹿市にある装飾古墳。道路開削によって羨道と前室の大部分が破壊され、道路とのあいだは石垣でふさがれている。写真は玄室から前室を撮影したもので、奥にみえる石積みは道路

図24 【被災後】井寺古墳（嘉島町）③

図25 【被災後】井寺古墳（嘉島町）④

図26 【被災後】井寺古墳ファイバースコープ調査

とのあいだの石垣である。地震の被害として、天井部からの落石、封土の落下が確認されている。市教委の山口さんの印象では、ここがもっとも被害が大きいとのことである。市史跡。

袈裟尾高塚古墳（図16・17）　菊池市にある装飾古墳。玄室石材（復元部材）の表面が剥離した。市教委の阿南亨さんによれば、前室左側壁がやや張り出しているように見えるとのことである。県史跡。

長明寺坂1号墳（図18・19）　菊池市七城町の円墳。玄室天井石付近の積石が落下した。県史跡。

井寺古墳（図20～26）　嘉島町に所在する装飾古墳。墳丘に亀裂が生じた（図22）。石室では、そ

図27 【被災後】小坂大塚古墳（御船町）

図28 〈被災前〉今城大塚古墳（御船町）

図29 【被災後】今城大塚古墳（御船町）

の開口部の石材が落下あるいは倒れ込み、それが内側から入口の扉を押している（図24・25）。その圧力が扉の掛鍵にかかり、鍵を外すことができない。無理に扉を開けると、今以上に積石の崩落を招く恐れがある。ファイバースコープによる石室内調査が6月22日に実施され（図26）、羨道に土砂が流入していること、羨道左側石材の傾斜が大きくなっていること、玄室積石のいくつかが落下しているらしいことなどが明らかとなった。扉の開閉、石室内詳細調査、そして修復の方法など、今後検討すべき課

図30 【被災後】松橋大塚古墳（宇城市）

題が山積している。国史跡。

小坂大塚古墳（図27）　御船町にある円墳。墳丘の一部に崩れが生じた。墳頂部には亀裂が発生しているようである。町史跡。

今城大塚古墳（図28・29）　御船町にある装飾古墳。墳丘が大きく崩壊し、崩れた墳丘盛土が石室入口をふさいでいる。町史跡。

松橋大塚古墳（図30）　宇城市松橋町にある前方後円墳。本誌第27号で周溝部の調査成果を紹介したことがある。地震により後円部東側に亀裂が発生した。隣地への崩落が懸念されたため、7月下旬、立ち会いのもと緊急工事が実施された。市史跡。

桂原古墳（図31・32）　宇城市に所在する円墳。石棚の一部が大きく損壊し落下、また玄室上部の石材にも落下が認められる。県史跡。

年の神2号墳（図33・34）　宇城市小川町に所在。覆屋のなかで保存された石室腰石のうち、奥壁の腰石が前方へ大きく傾斜した。市史跡。

天神山古墳（図35）　宇土市に所在する前方後円墳。地震では前方部南端が崩落したとのことだが、写真は後円部の様子。菅原神社に面する後円部南側はかねてより大きく削平されていたが、6月21日の豪雨によってさらに大規模に崩落した。地震に

図31 〈被災前〉桂原古墳（宇城市）

図32 【被災後】桂原古墳（宇城市）

よって墳丘に亀裂が生じていた可能性がある。今後、崩落土自体の調査が必要と思われる。市史跡。

大野窟古墳（図36～38）　氷川町にある前方後円墳。玄室高約6.5mは全国一の高さである。その玄室壁体をなす石材のいくつかが大きく破損、落下した。国史跡。

大戸鼻南古墳（図39・40）　上天草市松島町にある大型の箱式石棺。現在の墳丘は後世の盛土である。その石棺保護施設入口部のコンクリートが破損、落下した。県史跡。

長砂連古墳（図41）　上天草市大矢野町にある装飾古墳。石障のみが残されており、それをコンクリー

図 33 〈被災前〉年の神２号墳（宇城市）

図 34 【被災後】年の神２号墳（宇城市）

図 35 【被災後】天神山古墳（宇土市）

図 36 〈被災前〉大野窟古墳（氷川町）

図 37 【被災後】大野窟古墳（氷川町）①

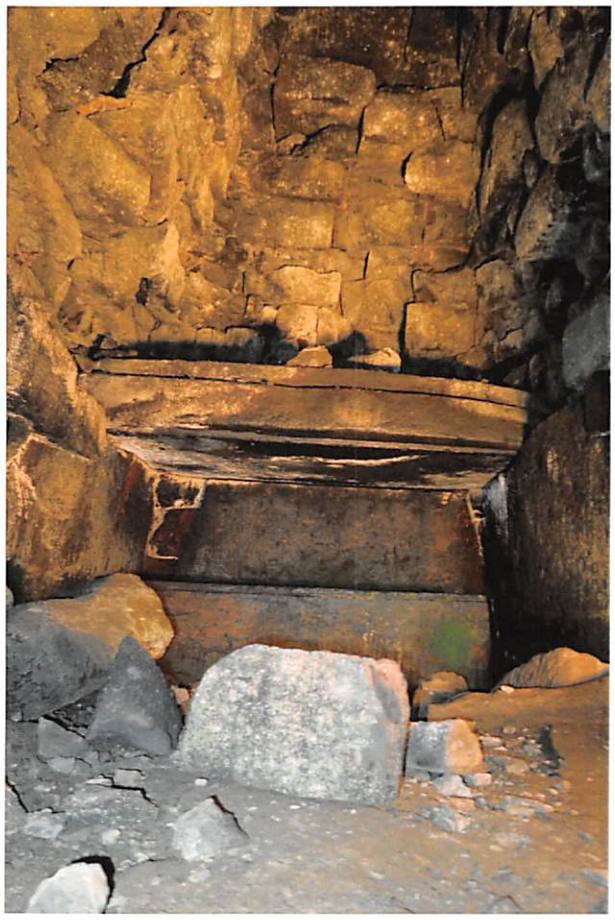

図 38 【被災後】大野窟古墳（氷川町）②

ト製の保護施設、および後世の盛土が覆っている。その保護施設のコンクリートが一部破損し、鉄筋が顔をのぞかせている。石障では、かつて石障を組み上げた際に用いられた隙間充填用の瓦小片が落下した。県史跡。

冒頭に記したデータからもうかがえるように、今回の熊本地震による文化財被害の特徴の１つは、地上に残された遺跡や構築物に甚大な被害が生じていることだと思う。それを象徴的に表しているのが熊本城や阿蘇神社であるが、古墳もその例外ではない。九州を中心に古墳時代の研究を進めてきた本会の１つの使命として、未指定のものにも注意を払いなが

図39 〈被災前〉大戸鼻南古墳（上天草市）

図40 【被災後】大戸鼻南古墳（上天草市）

ら、今後も古墳の被災状況、さらにはその復旧の様子などをレポートしていけたらと考えている。

参考文献

熊本県教育庁文化課　2016.6.27「熊本震災による被災文化財について」〈http://www.pref.kumamoto.jp/common/UploadFileOutput.ashx?c_id=3&id=16289&sub_id=1&flid=73277〉（2016/8/8アクセス）

熊本日日新聞　2016.7.8「熊本地震、県内古墳にも大きな被害」〈http://kumanichi.com/news/local/main/20160708002.xhtml〉（2016/8/8アクセス）

図41 【被災後】長砂連古墳（上天草市）

写真提供・出典

図1：後藤愛弓氏提供
図2・5・6・9・11・12・18・24・26・27・35～41：杉井撮影
図3・4：熊本市文化振興課提供
図7：熊本県立装飾古墳館提供
図8：玉名市教育委員会提供
図10：竹田宏司氏提供
図13～15：山鹿市教育委員会提供
図16・17・19：菊池市教育委員会提供
図20～23・25：嘉島町教育委員会提供
図28：http://kofunoheya.blog.fc2.com/blog-entry-2824.html（古墳のお部屋ブログ館）
図29：御船町教育委員会提供
図30・32・34：宇城市教育委員会提供
図31：宇城市教育委員会提供（谷口大典氏撮影）
図33：http://kofunoheya.blog.fc2.com/blog-entry-2999.html（古墳のお部屋ブログ館）

協力（掲載古墳順）
後藤愛弓、竹田宏司、坂口圭太郎、福田匡朗、山口健剛、阿南　亨、橋口剛士、末武希代子、神川めぐみ、藤本貴仁、今田治代、山下祐一郎

編集後記

○総会の議を経ていませんが、今号はカラーで印刷しました。その方がより適切に伝わると判断したためです。皆様のご理解を頂戴できればうれしく思います。
○日本考古学協会の理事を仰せつかったこともあり、5月以降、私は頻繁に関東や関西を訪れていますが、彼の地では熊本地震のことはもう遠い過去の出来事のようです。文化財被害の状況もほとんど知られていません。こちらから情報発信することの重要性を痛感しています。
○11月の宇土、来年1月の雲仙で皆様にお会いできるのを楽しみにしています。　（杉井）